横浜市立 並木中央小学校　　学校評価報告書　　（ 令和 元 ～ 3 年度 ）

重点取組分野	令和　元　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①「学力向上アクションプラン」の基本方針や指導法内容、指導方法についての共通理解の場を設ける。 ②国語科を中心に「生きてはたらく力」となる学力の基盤としての「言葉の力」を重視した授業づくりを進める。 ③言語環境の整備・充実を図るとともに、朝の時	学習時の約束や学びに向かう姿勢等を確認し、学校としての学習のスタンダードに基づく授業づくりを重ねることができた。とりわけ、国語科の重点研究を軸に、言語感覚を培う取組の充実が図られた。「古典暗唱」をモジュールとして教育課程内に位置付けた指導も試みることができた。	B
豊かな心	①「豊かな心の育成プラン」の基本方針や指導内容、指導方法についての共通理解の場を設ける。 ②学級の枠に捉われず、学年やブロックとしての活動機会を設けたり、縦割り班活動の有効活用を進める。 ③子どもたち主体の生活づくりを意図し、児童運営委員会・児童人権会議を計画的継続的な活動	道徳の時間に限らず、すべての教育活動を通して規範意識の高揚・定着、よりよい人間関係の構築を意識した取り組みが図られた。年間を通した縦割りグループを中心とした活動や、児童人権会議の計画的・定期的な実施により、本校の特色ある教育活動として定着してきていることは意義深い。	A
健やかな体	①「体力向上アクションプラン」の基本方針や指導内容、指導方法についての共通理解の場を設ける。 ②児童保健委員会を中心に「健康体操」を創り、年間を通し、朝会時を初め健康づくりとして継続実施する。 ③一校一実践運動の取組として、年間を通して	一校一実践として取り組んだ「縄を使った運動」や「健康体操」の実施では、児童保健委員会が中心となり、本校の子どもの実態や思い・願いを基にした取組でもあり、年間を通して継続的に行われ、運動の楽しみ方を味わうよい機会となっていた。次年度以降も児童の思いの実現が期待できる。	B
教育課程学習指導	①「言語の獲得と活用」を常に念頭に置き、言語活動の充実を意図した授業づくりを意図的計画的に行う。 ②重点研究（国語科）での課題解決的な学び方を、他教科における学びづくりにおいても位置付ける。 ③学年内の一部教科担任制やTT指導、少人数	重点研究教科としての「国語科」を中心としたカリキュラム・マネジメントを行うことで、本校の教育課程の特色づくりが重ねられた。「言語の獲得と活用」という教育課程の理念は、本校の学校経営の根幹を支える考え方でもあり、学校教育目標の具現化に資する学びづくりを進めていくことが重要である。	A
特別支援教育	①個別支援学級のみならず、児童の実態に則して個別の教育支援計画を作成し、組織的な指導を行う。 ②必要に応じ、特別な支援を要する子どもの指導方針・指導内容・指導方法を共有するケース会議を行う。 ③専門的な知識を学ぶ機会として、見識や造詣の	特別な支援を要する児童の困り感に寄り添い、丁寧な指導に努めてきた。必要に応じたケース会議の実施を通して、児童理解を深め、指導内容や指導方法の検討、試行が随時行われた。専門的な知見にかかわる研修や研鑽の機会の設定という点でも、コーディネーターを中心に堅実な取組が見られた。	B
学校運営協議会	①地域に根差した教育活動を推進するためにも、学校運営に寄与する各所属代表者の意見交換の機会とした学校運営協議会を年間4回実施する。 ②周年行事（開校15周年）に関する各所属代表者の意見を参考にし、周年事業の方向性を確かにする。	当初計画した予定通りの回数での実施が叶わなかったものの、本校の特色ある教育活動の維持・向上に向けての理解・協力が随時図られた。周年行事への取り組みについても、大筋方向性が支持され、次年度は本格的な取組に臨む段階に至った。一部委員に変更があるものの体制としては整っている。	B
地域連携	①教育活動の中で、地域人材や施設・設備等の有効活用を行ったり、進んで地域の教育力や関連機関、民間企業等の地域貢献事業への参画を進めたりする。 ②地域学校連携協働本部（さくらんサポーターズ）の活動を活かしたカリキュラム・マネジメントを推進する。	特色ある教育活動の維持・継続には、地域の教育力としての人材活用が重要であり、昨年度発足した「さくらんサポーターズ」の組織の整備と機能強化がカギを握るものと思われる。組織としての活動内容の整理と活動方法の整備という点において、これまでの取組をもとにさらに充実を図りたいと考える。	B
安全・防災危機管理	①避難訓練を月に一度実施し、随時「安全・防災プラン」の見直しを図り、実効性のある安全・防災計画となるよう改訂を重ねていく。 ②危機管理意識の高揚を図るためにも、専門的な見識をもつ講師を招聘した授業や研修会を実施する。	避難訓練を通して、自らの安全を守る方法を身に付ける機会を計画的に設定し、安全教育を重ねてきた。同時に「安全・防災プランの見直しを行い、より実効性のある取組となるような作業を進めた。専門性の見地から、引き続き情報収集を図るとともに、学校としての取組を保護者・地域へ発信しておきたい。	B
いじめへの対応	①いじめに関する調査を行い（年間2回）、子どもたちの状況を把握し、必要に応じた指導を行うとともに、「いじめ防止プラン」の実効性を高めるための改訂を重ねていく。 ②児童指導に関わる情報交換会を定期的に実施し、指導方針・指導内容・指導方法を随時共有していく。	児童指導に関わる情報交換については、定例会を設けて実施した。加えて、緊急を要する対応や方針の共有を図るための協議会を随時実施し、いじめの未然防止・早期発見に努めた。いじめへの具体的な対応という点においても、全教職員が情報を共有し、対応の方向性がぶれないように努めた。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①授業力向上のために、校内授業研究会（重点研究）を年間8回実施し、授業改善に関する幅広い見識を積む機会を設け、一人ひとりがカリキュラム・マネジメントへの参画意識を高めていく。 ②キャリアステージに見合う見識を磨くため、メンターチームを核とした研修を定期的（年間8回）に設ける。 ③働き方改革に関する職員意見交換の場を設	校内重点研究を通して、授業改善を視野に入れた授業力の向上が進められた。単元開発を視野に入れたカリキュラム・マネジメントという点においても、引き続き意識の高揚と持続を図っていきたい。 キャリアステージに見合う研修・研鑽の実施という点でのメンターチームによる研修会は、時間的な確保が課題である。	B
ブロック内評価後の気付き	ブロックでの共通取組事項については、交流会や授業参観・教科研修会を活用して実施に向けての情報共有を重ねた。「聴く力」の定着から、本年度は「発信する力」という点に重点をかけるところではあったが、学校間の意識の軽重という点で、引き続き共通取組の内容と方法の検討、実践に移していくことが必要である。その一方で、「あいさつ活動」の充実という点では、継続的な取組でもあるということから、定着が図られてきていることが実感できる。並木のまち全体の取組として、保護者や地域も協力的でもあり、今後も大事にして教育活動として価値づけていきたい。		
学校関係者評価	学校としての特色を明確に打ち出し続けて教育活動が行われている点が評価できる。学校行事にとどまらず、日々の学校運営や教育活動に対しての意見交流や振り返りも丁寧に行われていると思われるが、評価の視点・評価の内容の精度を高めたり、評価の結果をどのように捉え、学校経営に反映させていくかという視点においても、今後は発信の機会を明確にしながら学校運営を遂行していくことが望ましいと思われる。創立15周年を迎える次年度以降も、地域に根差した特色ある教育活動を大事に学校経営・学校運営が行われることに期待している。		
中期取組目標振り返り	新しい中期学校経営方針のもと、初年度が終わったところである。年度末から年度初めにかけて、方針に迫るための具体的な取組としての妥当性や、方針自体の見直しの視点から、実効性のあるプランの整備と組織としての共有を図りたい。とりわけ、カリキュラム・マネジメントの視点を重視し、教育活動全体を俯瞰しながらも、特色ある学校づくりに向けた具体的な取組については、理念を大事に引き継ぎながら内容や方法の見直し、改善に努めた学校運営が求められるものと考える。特色ある学校づくりという点での教育活動の創造こそ、本校の大きな使命であると考えたい。		

重点取組分野	令和　2　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①「学力向上アクションプラン」の基本方針や指導法内容、指導方法についての共通理解の場を設ける。②国語科を中心に「生きて働く力」となる学力の基盤としての「言葉の力」を重視した授業づくりを進める。③言語環境の整備を進め、「読書」「古典暗唱」「読み聞かせ」等の内容をさらに充実させる。	国語を中心とした他教科との関連や教科横断的な授業づくりを試みることができた。学習で獲得した「言葉」を中心に友達との交流を通して学び合う授業づくりに取り組んだ。「古典タイム」について、学級内では取り組めたが、他学級への発表の場について、来年度は工夫して取り組めるようにする。	B
豊かな心	①「豊かな心の育成推進プラン」を基に、道徳教育全体計画の見直し共通理解を図り、計画的に取り組む。②学級の枠にとらわれず、学年・ブロック・縦割り活動の場を設け、思いやり・協力・達成感を味わえるよう活動を支援する。③子ども主体の生活づくりを意図し、児童運営委員会・児童人権会議を計画的継続的な活動として位置づける。	道徳教育全体計画について共通理解を図りながら改訂することができた。学年・ブロック、ペアの活動は工夫しながら実施できた。縦割り活動については、来年度工夫した形で取り組んでいく。児童運営委員会・児童人権委員会については計画的継続的な活動を通し、児童が意欲的に取組み、児童の満足感も高い活動ができた。	A
健やかな体	①体力・運動能力調査の結果をもとに「体力向上アクションプラン」の見直し・修正を図り、取り組みについて共通理解を図る。②学校保健委員会の活動の充実を図るとともに、昨年作成した「健康体操」を活用する。③一校一実践運動の取り組みとして、「縄跳びを使った運動」や集会に引き続き取り組む。	今年度は、体力・運動能力調査は中止となり、「体力向上アクションプラン」の見直しや「健康体操」の取組は見送った。体育の授業では内容を工夫して行い、体力の向上を図った。学校保健委員会の活動は、手洗いや栄養・咳エチケットなど現状で子どもに必要とされる内容に変更し、TV放送等を利用し全校で実践に取り組んだ。	B
教育課程学習指導	①新指導要領を元に、「言語の獲得と活用」と言語活動の充実を意図した授業作り・カリキュラムの改善を図る。②国語でめざす課題解決的な学び方を他教科でも位置づけていく。③学年内の一部教科担任制やTT・少人数指導等指導方法の工夫をしながら取り組む。	新指導要領の評価について「国語科」を中心に重点研究を通して、全職員で研修し、指導と評価の一体化について学びを深めることができた。「学び合い」と「振り返り」を大切にし、児童の学びの定着に務めた。一部教科担任制・少人数指導だけでなく、今年度は非常勤職員の特別配当を活用し、低学年でもTTでの授業を実施できた。	A
特別支援教育	①児童の実態に即して個別支援計画・個別指導計画を作成し、組織的に指導を行う。②SC・SSW・関係機関などと連携を図りながら必要に応じ、特別な支援を要する子どものケース会議を行う。③特別支援学校のコンサルテーション等などを受けながら、専門的な知識を学び、アドバイスを実践に生かす。	特別な支援を要する児童について児童の困り感や実態を把握し、個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し、指導に生かしてきた。SC,SSW,区役所などの関係機関と連携を図りケース会議やカンファレンスを随時行い、問題や困り感の解決に向けて組織として取り組み、成果も見られた。	B
学校運営協議会	①地域に根差した特色ある教育活動をめざし、学校運営協議会を4回設定する。また、意見交換の時間を十分確保し、本校の教育活動に理解・協力を得ていく。②周年（開校15周年）行事に関し、ご意見を頂きながらよりよい方法で実施する。③地域学校連携協働本部と連携を取りながら取り組む。	4回のうち、緊急事態宣言下の2回は紙面での協議会となった。回数が少なく、学校に来校していただく機会も少なかったので、その分児童の活動や感染症対策についてなど、画像や映像を多用することで理解・協力が得られるように努めた。周年行事の取り組みについても報告・相談しながら実施してきた。	B
地域連携	①地域コーディネーターと連携を密にとり、地域人材や施設・設備等の有効活用を図ったり、地域の教育力や関連機関・民間企業等の地域貢献事業への参画を進めたりする。②漢字検定他、地域学校協働本部（さくらんサポーターズ）の活動を生かしたカリキュラムマネジメントを推進する。	みまもりかいの方との花植え活動などできる範囲での取り組みとなったが、協力を得ることができた。地域学校連携本部主催の漢字検定を職員も協力し実施することができた。次年度は、さくらんサポーターズの活動について、状況を見極めながら日常の学習など活動でご協力を得、地域コーディネーター等活動の充実を図っていく。	B
安全・防災危機管理	①避難訓練を月に一度実施し、随時「安全・防災プラン」の見直しを図り、実効性のある安全・防災計画となるよう改定を重ねていく。②危機管理意識の高揚を図るため、専門的な見識を持つ講師を招聘した授業や研修会を実施する。③地域と連携しながら災害時の対応について検討を重ねていく。	災害時の登下校マニュアルの見直しを図った。「安全・防災プラン」について避難訓練を通し、実際の場面を想定し実効性のあるものになるようその都度修正するよう努めてきた。消防署や防災センター等外部機関とも連携をとり防災教育を進めた。来年度は地域との連携を取りながら進めていきたい。	B
いじめへの対応	①いじめに関する調査を年2回行い、子どもたちの状況を把握し、必要に応じた指導を行うとともに、「いじめ防止基本方針」の実効性を高めるための改定を図る。②児童指導に関わる情報交換会を月一回実施し、指導方針・指導内容・指導方法を随時全職員で共有していく。	今年度は、休校明けにYPアセスメントシートを実施した。その他、年2回のいじめアンケート・毎月の職員の児童指導会議やいじめ防止対策委員会での情報共有・実態の把握・指導方針の共通理解を基に取組んだ。来年度も継続していく。いじめ防止基本方針の改訂を行った。講師を招聘しLGBTQの研修を行い、職員の人権意識の向上を図った。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①授業力向上のために、校内授業研究会（重点研究）を年間8回実施し、授業改善に関する幅広い見識を積む機会を設け、一人ひとりがカリキュラムマネジメントへの参画意識を高めていく。授業研の在り方を工夫する。②キャリアステージに見合う見識を磨くため、メンターチームを核とした研修を年9回設ける。③働き方改革に関する職員意見交換の場を設けたり、アイデアを募ったり、業	休校期間があったため、計画より少ない回数での授業研究会となったが、その分評価についての研修会を実施でき、カリキュラムマネジメントや指導と評価について職員の理解を高めることができた。メンターチームの計画的な研修を通して実態に合った研修を行うことができた。ミライムや職員室アシスタントによる消毒業務など業務改善が行われたが、引き続き業務改善を図っていく。	B
ブロック内評価後の気付き	今年度は、授業参観・教科研修会等が行えなかったが、「あいさつで心豊かな一日を」のスローガンに向けて、校内では、児童の複数回のあいさつ運動、朝会での児童への話などの活動に取組み、児童継続的に声掛けをし意識づけ定着を図ることができるよう努めてきた。地域全体で取組みを活性化させていきたい。例年行っている6年と中学の交流についても動画等での交流を実施した。今年度取組ができなかった授業参観や教科研修会、あいさつへの取組などについては来年度の状況に合わせた形でできる限り実施していく。		
学校関係者評価	今年度は、児童の様子を直接見ていただく機会を設定できなかったため、画像や動画などで教育活動について紹介・説明をもとにして評価していただいた。学校として感染症予防対策に取り組んでいること、行事や学習の仕方について工夫して実施していることをはじめ、学校の取り組みには概ねご理解をいただいた。15周年について、地域の方との活動はできなかったが、児童が発案した記念誌作りや児童会の活動、PTAからのご協力や記念植樹などの活動もご理解いただいた。来年度は、学校評価の項目や内容について検討していくことや、地域との関りを大切にした学校運営を期待している。		
中期取組目標振り返り	コロナ禍での制約のある教育活動であったが、活動のねらいと子どもの安全を確認しながら工夫して活動の計画を立て取り組んできた。保護者や地域の方のご理解・ご協力を得ながら様々な活動に取り組んできた。校内の教育活動について、休校期間中職員が改めて指導内容や目的・カリキュラムマネジメントについてじっくりと見直したり計画したりする時間がとれたことは有意義であった。今年度活動ができなかったことについてあるいは新たな取り組みなどより良い方法をさらに探り、本校の「ことば」「自信」「コミュニケーション力」という特色をさらに伸ばしていくことが次年度に向けての課題である。		

重点取組分野	令和　3　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①「学力向上アクションプラン」の基本方針と児童の実態を職員で共有し内容の修正を行う。②「生きて働く力」となる学力の地盤としての「言葉の力」を重視し国語科を中心にとした課題解決的な授業づくりをさらに進め、他教科へも位置づけていく。③言語環境の整備を進め、「読書」「読み聞かせ」の内容を充実させ、「古典暗唱」の発表の機会を設ける。		
豊かな心	①「豊かな心の育成推進プラン」（「特別な教科『道徳』」の修正・改善を加えながら活用し、年1回以上公開授業を実施する。②学年やブロック、縦割り活動の機会工夫して設け、思いやり・協力・達成感を味わえるよう支援し、振り返りや価値づけを丁寧に行う。③児童運営委員会・児童人権委員会を計画的・継続的・主体的な活動として位置づける。④挨拶の励行をさらに進める。		
健やかな体	①体力・運動能力調査結果をもとに、「体力向上アクションプラン」の見直し・修正を共通理解しながら図る。②学校保健委員会の活動について、活動方法内容を工夫して取り組む。③感染症防止対策をとりながら、一校一実践運動の取り組みとして「縄跳びを使った運動」に取り組む。		
教育課程学習指導	①「言語の獲得と活用」と言語活動の充実を意図した授業作り・カリキュラムの改善を図り、評価についての検討を重ね指導と評価の一体化を目指す。②ICTの活用を図り、学習での効果的な利用を進める。③学年内の一部教科担任制やTT・少人数指導等指導方法の工夫をしながら学力向上に取り組む。		
特別支援教育	①個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し、実態を把握し組織的・継続的に指導にあたる。②SC・SSW・関係機関などと連携を図りながら必要に応じ、特別な支援を要する子どものケース会議を行う。③特別支援学校のコンサルテーション等などを受け、職員全員で専門的な知識を学び、実践に生かす。		
学校運営協議会	①地域に根差した特色ある教育活動を目指し、学校運営協議会を4回設定する。また、意見交換やグループ討議等の時間を確保し、本校の教育活動に理解・協力を得ていく。②地域学校連携協働本部と連携を取りながら学校運営協議会の運営及び活性化に取り組む。		
地域連携	①地域の特色を生かした学習単元や材の開発に取り組む。②地域コーディネーターと連携を密にとり、地域人材や施設・設備・関連機関に協力を仰ぎ、効果的・積極的に教育活動への参画を進める。③漢字検定他、地域学校協働本部（さくらんサポーターズ）の活動を生かしたカリキュラムマネジメントを推進する。		
安全・防災危機管理	①避難訓練を月に一度実施し、随時「安全・防災プラン」の見直しを図り、実効性のある安全・防災計画となるよう改定を重ねていく。②危機管理意識の高揚を図るため、専門的な見識を持つ講師を招聘した授業や研修会を実施する。③地域防災拠点運営会議とも連携しながら災害時の対応について検討を重ねていく。		
いじめへの対応	①いじめに関する調査を年2回行い、子どもたちの状況を把握し、必要に応じた指導を行う。YPアセスメント調査も年2回行う。②「いじめ防止基本方針」の実効性を高めるための改定を図る。③児童指導に関わる情報交換会を月一回実施し、指導方針・内容・方法を随時全職員で共有し取り組む。		
人材育成・組織運営（働き方改革）	①授業力向上のため、国語科の公開授業研を行う。一人年2回授業研を行い、授業改善に関する幅広い見識を積む機会を設け、カリキュラムマネジメントへの参画意識を高めていく。②キャリアステージに見合う見識を磨くため、メンターチームを核とした研修を年9回設ける。③働き方改革のアイデアを募ったり意見交換の場を設けたりし、業務改善策を講じる。		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			